

平成 29 年度経営学部新カリキュラムにおける 初年次教育について

関根 慎吾¹・山崎 泰央^{*}・竹中 徹^{*}・工藤 周平^{*}・田村 真介^{*}

The First-Year Experience of the Faculty of Business Administration of Ishinomaki Senshu University

Shingo SEKINE^{*}, Yasuo YAMAZAKI[†], Toru TAKENAKA^{*}, Shuhei KUDO^{*} and Shinsuke TAMURA^{*}

^{*}*Department of Business Administration, Faculty of Business Administration,
Ishinomaki Senshu University, Miyagi 986-8580, Japan*

Abstract

Central Council for Education submitted a report about the cooperation of the upper secondary education and higher education for new generation December 2013. It required a conversion of the higher education, particular the first-year experience. Corresponds to the change of higher education need, department of Business Administration, Faculty of Business Administration, Ishinomaki Senshu University starts new curriculum this year.

This paper explains the sequence of considerations of the new program for freshmen, and shows the questionnaire results of the classes. We try to understand the current condition of the classes from this. Also, we will try to improve the teaching and contents for the first-year experience with reference of these data and so on.

1 はじめに

平成 26 年 12 月に公表された中教審による「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体改革について」(答申)では、大学教育の教育内容、学習・指導方法、評価方法、教育環境を抜本的に転換するとしている。具体的には、学生の主体性・多様性・共働性を育成すること、大学初年次教育を重視することが提言された。このような提言の背景には、高等学校教育について、「国家および社会の責任ある形成者として、自立して生きる力」の確実な育成、またそのための教養と行動規範の涵養を目標としており、大学教育では高等学校教育において培われた「生きる力」等を更に発展・向上させ、社会で主体的に多様な人々と協力して生活をし、仕事をしていくことができるような、各種知識・技能そしてそれを活用して、思考し、判断し、表現する技術を獲得した人材を輩出する(高大接続システム改革会議「中間まとめ」)ことが求められていることがある。

大学教育を巡るこうした環境変化に対応するために、石巻専修大学経営学部は平成 29 年度新カリキュラムから、初年次教育を大幅に見直した。本稿では、4 月から始まった初年次教育科目である「フレッシュマンセミナー」(1 年次必修)での授業内容ならびに、受講生の反応等について、途中経過の現状を明らかにするとともにこれからの課題についても検討している。

2 カリキュラム改正作業について

石巻専修大学経営学部では、平成 26 年にカリキュラムの抜本的な見直しを含めた検討を開始した。まずは、経営学部長の諮問機関としてブラッシュアップ委員会が設置され、同委員会がカリキュラム検討プロジェクトチームを組織し、具体的な検討を行った。同プロジェクトチームはブラッシュアップ委員会に対する答申の中で、石巻専修大学経営学部では何を学ぶことができるのか、どういう能力を身に付けることができるのか、といったことをカリキュラムという目に見える形

¹石巻専修大学経営学部経営学科

で発信されてこなかったことが問題ではないかと指摘した。さらに、平成 26 年 12 月に公表された中教審による「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体改革について」（答申）に触れて、学生の主体性・多様性・共働性を育成すること、大学初年次教育を重視することを提言している。

カリキュラム改正にあたっては、卒業時に学生が習得しなければならない学修内容を念頭に置く必要がある。そこで、ディプロマポリシー（DP）をリテラシー（知識を学ぶ）とコンピテンシー（経験を積む）の両軸で考え、リテラシー軸では①生涯にわたって学ぶ姿勢を確立した人、②新たな課題を発見し、論理的に思考できる人、③ビジネスに関する学問の基礎を修得した人とし、コンピテンシー軸では①自分らしさの確立と他者への共感を基に、互いに協力して働く人、②社会的規範を重んじ、地域社会の持続・発展に寄与する人とした。こうした DP を達成するためのカリキュラムポリシーを、①学内外での学習体験を通してビジネススキルと困難にも立ち向かう力（レジリエンス）を養成する、②学習した経営学の知識が、実社会でいかに生かされるのかについて、学生の主体的な学びを促し、多面的な学習評価を行うと定めて、1 年次では基礎ゼミナールを配置し、学習スキルの習得からキャリア教育の第 1 段階となる科目として展開することを提案した。¹

平成 29 年度カリキュラム改正に向けた検討については、上記の提案を基に教授会での審議を経て、平成 27 年 3 月 26 日にその方向性が教授会で承認された。そこで、平成 27 年度に経営学部長の発議により発足したカリキュラム委員会では、大学教育では高等学校教育において培われた「生きる力」等を更に発展・向上させ、社会で主体的に多様な人々と協力して生活をし、仕事をしていくことができるような、各種知識・技能そしてそれを活用して、思考し、判断し、表現する技術を獲得した人材を輩出する（高大接続システム改革会議「中間まとめ」）ことが求められているとして、本学経営学部を卒業する学生像を、「常に目標を更新しつつ、今から 10 年後に、自分らしく社会責任を果たして働ける人」と定めた。こうした人材を養成するためには、初年次の課程において学習

習慣の確立や学習動機の明確化が不可欠であることから、1 年次における学習内容（または学習目的）を「成果を生み出す体験を通じて現在と将来（自分がなりたい姿と）のギャップを示し、それを埋めるための体系的な学びの機会を提供する。また、生涯にわたって学び続ける意義と学習スキル・社会スキルを身に付ける場を提供する」とした。なお、学習内容（または学習目的）は、文部科学省が提唱する学士力の 4 要素（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、創造的思考）を念頭に、どの科目でどのような要素を学習させるかを設計する必要性も指摘した。²

初年次教育を徹底し、そこで 4 年間の学習に耐えられる基礎的な知識や姿勢を確立させることと、学生の主体的な学びを促す機会を最大限に取り入れるカリキュラムは、平成 27 年度に経営学部で設定した DP を目的に構想されたものであった。すなわち、

- 1-1 幅広く豊かな教養を身につけている。
- 1-2 ビジネスに関する学問の基礎を修得している。
- 1-3 学問の体系性や方法論を理解している。
- 2 情報を収集し、自分の考えをさまざまな方法で的確に伝えることができる。
- 3-1 課題に対して問題点を抽出し、学んだ専門分野の手法を用いて考察し判断できる。
- 3-2 新たな課題を発見し、論理的に思考できる。
- 4 社会的規範を重んじ、地域社会の持続・発展に寄与できる。
- 5-1 生涯にわたって学ぶことができる。
- 5-2 他者の意見を理解し、社会の中で柔軟に協調した対応ができる。
- 5-3 自らを律し、自発的主体的に行動できる。
- 5-4 社会に貢献するための「自分らしさ」を確立している。
- 6 生涯にわたる健康づくりの大切さを理解している。

これを踏まえて、平成 28 年度には学部長の諮問機関であるカリキュラム構想委員会は、「フレッシュマンセミナー」（通年開講）は 1 年間を通してマインドマップをはじめとする 4 つの学びのツールを習得し、そのツールを実際に使う機会を提供することで、習得した学習スキルの定着を図ると

した。なお、学生の習熟度合いを全体として共有するために、毎回授業の振り返りを行い、次回授業の方針を各教員が確認することが必要となる。そこで、毎週授業終了後、SAを含めて担当者による連絡会議（仮称）を実施することも合わせて提案した。³

3 フレッシュマンセミナーの授業内容

平成29年度のフレッシュマンセミナーはカリキュラム構想委員会で提案されたとおり、4つの学びのツールを習得することを柱として授業を計画した。シラバス（資料1）では、概要として「本学経営学部が共通に習得すべき読む力、書く力、発想する力といった学習スキルの修得と、他者との関わりの中で汎用的な能力の向上を目指す」とした。また、到達目標は「グループ学習など他者との関わりの中で、自分とは異なる視座の考え方を通して、自己理解を深めることができるようになる。大学の学習の基礎となる学習スキルの修得を通じて、読む力、書く力、発想する力を身につけることができるようになる。修得した学習スキルを応用して、グループと議論しながら新規企画を立案し、それを他者の前に立ってプレゼンテーションができるようになる。」とされた。

前期（1～15回）では、4つの学びのツールのうち、マインドマップとフューチャーマッピングの2つの習得を中心に、図書館での図書検索や学内職員へのインタビュー等のアクティブラーニングも取り入れた。また、毎回の授業では振り返りシートを作成させ、受講者たちに毎回の授業で学習したことを確認させるとともに、担当教員はそのシートを持ち寄り、毎回授業後のミーティングで授業内容の検討や、受講生の反応などを共有した。更には、授業開始直後の4月、前期の折り返し時期にあたる6月上旬、そして前期の最後である7月下旬の3回にわたり、授業内容をどのくらい習得できたかについての自己評価を、アンケート（資料2）として実施した。⁴

4 アンケート集計結果について

アンケートでは、表1の①～⑫までの12の質問について、「まったく思わない」、「そう思わない」、「あまり思わない」、「ややそう思う」、「そう

思う」、「とてもそう思う」の6つの選択肢から1つを選んで回答してもらう。「まったく思わない」の1点から、「とてもそう思う」の6点まで、1点刻みで点数化されており、集計した結果質問事項について自己評価が高いほど高得点となるが、この評価点自体は授業の成績評価にはまったく関係ない。

表1 アンケート質問事項

①授業の中の演習などでは、教員から指示されたことだけでなく、自分から「これをやってみよう」と考え、積極的に取り組んでいる。
②グループで活動する際に、自分からグループメンバーに声を掛け、一緒に協力して活動するように働きかけている。
③各回の授業のねらいをもとに自分自身の目標を立て、目標に向かって実際に行動していくことができている。
④今の自分を理解できていて、どのようによくしていけば良いか、じっくり考えることができている。
⑤行動する際に、様々な可能性を考えて計画を立てている（話し合い、グループワーク等）。
⑥今までのやり方だけでなく、新しい方法を考えてみるように意識している。
⑦自分の意見をわかりやすく整理し、相手に理解してもらえるように伝えている。
⑧相手が話しやすいような聴き方を心がけ、相手の意見を丁寧に聞いている。
⑨自分と相手の意見が異なる場合は、それぞれの意見を大切にし、お互いに理解し合えるように心がけている。
⑩グループで行動するときに、自分がどのような役割を果たせば良いかを考えて行動することができている。
⑪社会のルールや人との約束を守って行動することができている（欠席・遅刻をしない、他者に配慮するなど）。
⑫難しいと感じることがあっても、「自分の成長機会だ」と前向きに捉えて行動することができている。

入学当初に実施したアンケート結果を、各質問について選択肢（1～6）毎に集計したのが表2である。ただし、当初もしくは学期末のいずれかのアンケートに回答していない受講生については、アンケート結果の比較ができないことから除外している。また、参考までに質問事項の平均とその順位も示している。

平成 29 年度経営学部新カリキュラムにおける初年次教育について

表 2 入学当初アンケート結果

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
1	2	0	0	3	1	1	2	0	0	1	1	1
2	10	14	8	9	9	13	8	4	3	5	3	9
3	31	26	26	32	36	28	23	13	13	23	7	23
4	33	33	47	45	39	39	50	48	46	46	29	42
5	22	22	16	6	10	14	15	26	23	18	29	20
6	3	6	4	6	6	6	3	10	15	8	32	6
平均	3.71	3.80	3.82	3.59	3.65	3.69	3.76	4.24	4.34	3.98	4.76	3.88
順位	9	7	6	11	12	10	8	3	2	4	1	5

各受講者の合計点をグラフ化したのが、以下の表 3 と図 1 である。

表 3 得点別人数（入学当初）

グループ	得点	人数
1	0～12	0
2	13～24	1
3	25～36	10
4	31～48	47
5	37～60	39
6	61～72	4

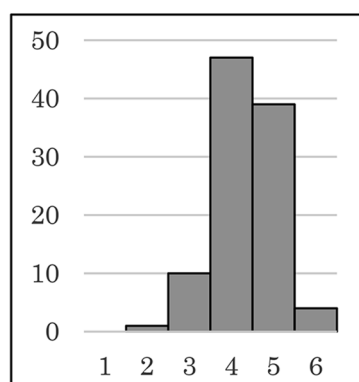


図 1 得点分布図（入学当初）

また、学期末に実施したアンケート結果の集計結果は表 4、5、図 2 である。

本アンケートでは、同一の質問を繰り返すことで、受講生各人が授業を進めるにつれて、学習スキルの習得についての自己評価がどのように変化しているかを把握しようとしている。図 3 は入学当初のアンケート結果合計を横軸に、学期末のそれを縦軸にとり、アンケート回答者全員をグラフ上に示している。

入学当初実施時のアンケート結果の平均は 47.2、学期末でのそれは 54.4 であった。すなわち、平均で 7.2 ポイント上昇したことになる。そこで、学年末（Y）＝入学当初（X）＋ 7.2 の直線をグラフ上に加え、さらに入学当初と学期末の平均を破線で書き加え、Ⅰ～Ⅵのエリアに分割して受講者の散らばり具合を観察してみた。

Ⅰは入学時から一貫して平均以上の自己評価であり、上昇幅も平均以上のグループである。Ⅱは入学時には平均以下だったが、学期末には平均以

上の自己評価で、入学時からの上昇幅も平均以上のグループである。これらのグループは入学時より平均以上に、学習スキルが向上していると感じていると推測される。

Ⅲは入学時から一貫して平均以下だが、上昇幅は平均以上のグループである。このグループは学習スキルの向上は自覚しているが、習得度合いが低いと感じていると推測できる。これは自己評価を厳しくしている場合も考えられるし、期待した以上の成果が実感できていないのかもしれない。

Ⅳは入学時から自己評価が一貫して平均以下で、上昇幅も平均以下のグループである。Ⅴは入学時には平均以上の自己評価だったが、学期末には平均以下となっているグループである。これらのグループでは学習姿勢が消極的で改善も見られない、もしくは自覚できていないと推測され、授業に対する満足度は低いと思われる。

Ⅵは入学時から一貫して平均以上だが、上昇幅が平均以下のグループである。このグループは、

表4 学期末アンケート結果

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
1	0	0	2	0	1	2	0	0	0	0	1	1
2	1	2	0	4	2	1	3	2	1	0	0	2
3	9	15	15	13	19	19	16	9	7	13	4	21
4	40	30	31	39	41	39	36	24	29	37	26	29
5	29	34	39	32	24	25	34	36	34	34	27	33
6	22	20	13	13	14	15	12	30	30	17	43	15
平均	4.61	4.54	4.44	4.37	4.26	4.28	4.36	4.82	4.84	4.54	5.05	4.34
順位	4	5	7	8	12	11	9	3	2	5	1	10

表5 得点別人数(学期末)

グループ	得点	人数
1	0～12	0
2	13～24	0
3	25～36	2
4	31～48	26
5	37～60	50
6	61～72	23

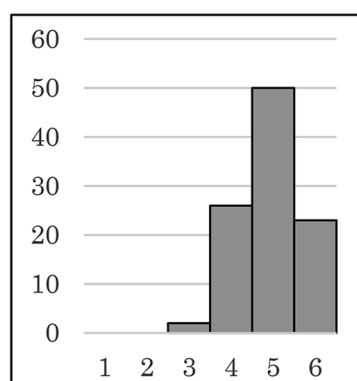


図2 得点分布図(学期末)

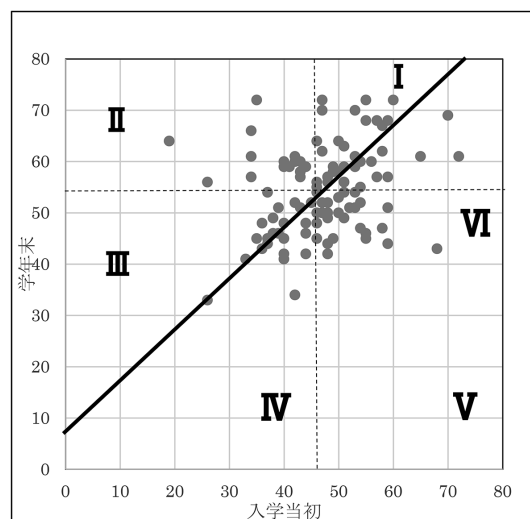


図3 入学当初学期末得点比較

表6 入学当初学期末得点比較分布

エリア	人数
I	17
II	21
III	12
IV	17
V	22
VI	12

度な成果を望んでいるのであろうか。

散らばり具合をみると、Vに属する受講生数が最も多く22名を数えている。そして、IIが21名で続き、I、IVが17名でそれに続き、III、VIが12名となっている。学期末に向けて評価が高くなった受講生（I、II、III）とそうでない受講生がほぼ半数ずつになっている。

因みに、入学当初と学期末で、全体としての自己評価がどのように変わったのかを集計したものをグラフ化したのが図4である。

入学時に比べて学習スキルの向上に自信が持てないと感じていると推測される。これは新しい学習スキルに対応しきれていないか、それともより高

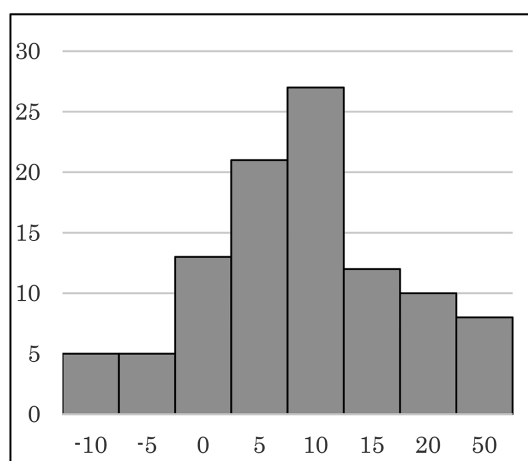


図4 アンケート合計点の入学当初学期末比較

表7 アンケート合計点の入学当初学期末比較

点数増減	人数
～ -10	5
-9 ～ -5	5
-4 ～ 0	13
1 ～ 5	21
6 ～ 10	27
11 ～ 15	12
16 ～ 20	10
21 ～	8

アンケート合計点が入学当初に比べて、変わらないもしくは減少している受講生は 23 名いるのに対して、6～10 点増加している受講生が 27 名になっている。

一方、質問事項毎の平均をレーダー解析したのが図 5 である。

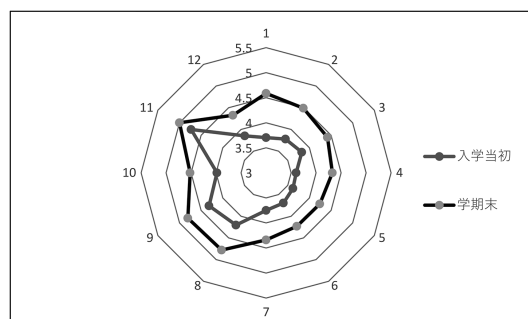


図5 質問事項のレーダー解析図

質問⑧、⑨、⑪は他者との協働ができているかを尋ねているが、他の質問事項と比べて一貫して自己評価が高くなっている。これらの質問事項はアンケートでは一貫して上位の得点を獲得していた。また、主体性に関する質問①については、入学当初こそ評価は低かったが、その後一貫して評価が上昇していて、学期末では質問⑧、⑨、⑪に次ぐ得点をあげている。

協働作業における自己の役割についての質問⑩では、中間で大きく評価を下げ、期末で高評価を得ているが、それでも当初以下となって、全質問事項の 5 番目の得点をあげている。

リーダーシップについての質問②、現状理解についての質問④、代替案の検討についての質問⑤では、中間で一端評価を下けているが、期末では当初を超える評価を獲得している。とはいえ、質問②で当初の 7 番目から 6 番目に、質問④では 11 番目から 9 番目に、質問⑤では 12 番目から 11 番目へと、大きな変化は見られていない。

計画性についての質問③、知識の活用についての質問⑥、相互理解への取り組みについての質問⑦、積極的な姿勢についての質問⑫は、中間では高評価を得ていたが、期末では当初以下に評価が下がっている。質問③が 6 番目から 7 番目に質問⑦で当初と変わらず 8 番目と、やはり大きな変化が見られなかったが、質問⑫が当初の 5 番目から 9 番目へ、また質問⑥が 10 番目から 12 番目へと大きく評価を落としている。

5 おわりに

本アンケート結果を比較してみると、多くの学生たちが入学当初から学習スキルや学習姿勢について、向上していると考えているように思われる。ただし、図 3 からわかるように、入学当初から一貫して自己評価が低い学生もいる。そもそも本アンケートは、自己評価でしかないので客観的な向上度合いを示していない。後期の授業ではルーブリック等の成績指標を定めて、客観的な向上度合いを測る工夫とともに、各学生の自己評価との関連性なども分析していき、効果的な初年次教育の方法を探っていくことが必要と考えている。

注

- 1 平成 26 年度ブラッシュアップ委員会カリキュラム検討プロジェクトチーム「平成 29 年度カリキュラム改正に向けた検討について（答申）」，平成 27 年 3 月 24 日
- 2 平成 27 年度カリキュラム委員会「平成 29 年度カリキュラム改正について（答申）」，平成 28 年

2 月 24 日

- 3 平成 28 年度カリキュラム構想委員会「平成 29 年度カリキュラムの構想について（答申）」，平成 29 年 3 月 10 日
- 4 アンケートは、明星大学教育センター『自立と体験Ⅰ』10 頁（「学ぶ力」自己点検シート），2016 年を参考にしている。

平成 29 年度経営学部新カリキュラムにおける初年次教育について

(資料 1) シラバス (経営学部フレッシュマンセミナー)

科目名称	フレッシュマンセミナー
所属科目群	基本教育科目／社会性養成／社会との関わり
配当時期等	1 年次通年 (必修)
概要	本学経営学部の学生が共通に習得すべき読む力、書く力、発想する力といった学習スキルの修得と、他者との関わりの中で汎用的な能力の向上を目指す。
到達目標	グループ学習など他者との関わりの中で、自分とは異なる視座の考え方を通して、自己理解を深めることができるようになる。 大学の学習の基礎となる学習スキルの修得を通じて、読む力、書く力、発想する力を身につけることができるようになる。 修得した学習スキルを応用して、グループと議論しながら新規企画を立案し、それを他者の前に立ってプレゼンテーションができるようになる。
授業方法	テキスト:授業中に指示する
授業計画等	1 回 自己紹介
	2 回 4 年間の学生生活の達成目標を考える
	3 回 大学での学びを考える (先輩の講話) (外部講師)
	4 回 学習スキル 1 (マインドマップ) - 1 (外部講師)
	5 回 学習スキル 1 - 2
	6 回 学習スキル 1 - 3
	7 回 質問の方法
	8 回 情報を集める 1 (学長・学部長講話) (学長・学部長)
	9 回 図書館 + 読書 (大学図書館) ※ 8 回 9 回は半分ずつ入れ替え
	10 回 情報を集める 2 (職員インタビュー) (大学職員)
	11 回 議論する (学校紹介ポスター制作)
	12 回 学習スキル 2 (フューチャーマッピング) - 1 (外部講師)
	13 回 学習スキル 2 - 2
	14 回 学習スキル 2 - 3
	15 回 振り返り (夏休みの目標設定)
	16 回 夏休みの振り返り
	17 回 ワークショップ 1 (学習スキルの実践)
	18 回 学習スキル 3 (エンパシーライティング) - 1 (外部講師)
	19 回 学習スキル 3 - 2
	20 回 学習スキル 4 (読書法) - 1 (外部講師)
	21 回 学習スキル 4 - 2
	22 回 ワークショップ 2 (他者との対話技術の実践)
	23 回 新入生歓迎企画の立案 1 (フューチャーマッピングの活用)
	24 回 新入生歓迎企画の立案 2 (マインドマップの活用)
	25 回 新入生歓迎企画の立案 3 (エンパシーライティングの活用)
	26 回 新入生歓迎企画の立案 4 (プレゼンの作成)
	27 回 新入生歓迎企画の立案 5 (プレゼン)
	28 回 ワークショップ 3 (大学生生活のゴールを考える)
	29 回 10 年後の将来を考える (フューチャーマッピングの活用)
	30 回 振り返り
他科目との関連性	大学での学びの基礎として、共通、専門の全ての科目の基礎科目と位置づけられる。
備 考	本授業は、外部講師 (アロマクリエーションからの専門講師) との日程調整等、並びに共通科目としての位置づけから、水曜日 3 時限に 5 展開で開講したい。

(資料2) 前期末アンケート

前期末アンケート 2017/07/26

名 前	担当教員				グループ			
	学籍番号	BA29	-					

以下の項目について、自分自身が今の時点でどれくらいできているかチェックしてみてください。
また、その理由についても考えてみましょう。以下の中からもっとも自分の状態に近いものを選んでください

質問	まったく 思わない	そう 思 わない	あまり そう 思 わない	やや そ う 思 う	そう 思 う	とても そ う 思 う
①授業中の演習などでは、教員から指示されたことだけでなく、自分から「これをやってみよう」と考え、積極的に取り組んでいる。	1	2	3	4	5	6
②グループで活動する際に、自分からグループメンバーに声を掛け、一緒に協力して活動するように働きかけている。	1	2	3	4	5	6
③各回の授業のねらいをもとに自分自身の目標を立て、目標に向かって実際に行動していくことができている。	1	2	3	4	5	6
④今の自分を理解できていて、どのように良くしていけばよいか、じっくり考えることができている。	1	2	3	4	5	6
⑤行動する際に、様々な可能性を考えて計画を立てている（話し合い、グループワーク等）。	1	2	3	4	5	6
⑥今までのやり方だけでなく、新しい方法を考えてみるように意識している。	1	2	3	4	5	6
⑦自分の意見をわかりやすく整理し、相手に理解してもらえるように伝えている。	1	2	3	4	5	6
⑧相手が話しやすいような聴き方を心がけ、相手の意見を丁寧に聴いている	1	2	3	4	5	6
⑨自分と相手の意見が異なる場合は、それぞれの意見を大切にし、お互いに理解しあえるように心がけている	1	2	3	4	5	6
⑩グループで行動するときに、自分がどのような役割を果たせばよいかを考えて行動することができている	1	2	3	4	5	6
⑪社会のルールや人との約束を守って行動することができている（欠席・遅刻をしない、他者に配慮するなど）。	1	2	3	4	5	6
⑫難しいと感じることがあっても、「自分の成長機会だ」と前向きにとらえて行動することができている。	1	2	3	4	5	6

